

金属の性質を生かして制作された作品が並ぶ作品展＝浜松市中区の静岡文化芸術大

## 静岡文化芸術大デザイン学部 山本教授

# 金属造形 創作の軌跡

## 来春退任を前に作品展



山本教授

静岡文化芸術大(浜松市中区)デザイン学部の山本一樹教授が来年3月に退任することを記念した作品展「風の記憶2021」が13日、同大で始まった。開催を記念して同日、金属造形分野を中心に長年、学生を指導してきた山本教授と卒業生によるギャラリートークも行った。

## 鍛金力作30点 教え子も出品

山本教授は高温にすると溶ける、たたくと伸びるなど金属特有の性質を生かして制作する鍛金を専門にする。会場にはギリシャのサントリーニ島を旅行して着想を得た作品など約30点を展示した。鉄や真ちゆう、銅を使い、焼いたり専用の液体でさびつかせたりして色を出している。指導した卒業生の作品約20点も紹介している。

ギャラリートークで山本教授は脳腫瘍の手術を受けたことなど自身の半生を語り、「作品を作り続けるのは大変なこと。続けられて

幸せ」と振り返った。作品展最終日の28日午後1時から、同大の教授4人とのトークセッションも行う。  
(浜松総局・日比野都夏)